

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

生活や経験を通した学び

4月・5月、新しく集団生活を送る子どもたちを迎え入れた幼稚園の中では、当然ながらちょっとしたトラブルが続発します。2歳以前の子どもたちは目の前の物を自分で使って楽しむことが優位であり、友達のしていることにはそこまで興味を示しません。3歳くらいになると、みんなと一緒にいる楽しさも知りますが、3歳くらいまでの子どもたちの遊びは、それぞれの子どもが好きなことをして遊び（並行遊び）、時には友達の物を平気で取り上げることもあります。砂場にぽつんとあったスコップで穴を掘ろうと手にしたら、隣にいる子がすごい剣幕で「今使ってるのに!」「取らないで!」とまくし立てるようなこともあります。

このようなときには「順番」や「交替」というような言葉や「貸して」「いいよ」というような表現もよく使いますが、当然ながらこうした言葉や表現がわからないとうまくはいきません。また、「みんな」と言われたときに、自分も含まれているとはすぐに理解できないこともあったり、「順番」と言われても自分がどうすればいいかわからなかったりすることもよくあります。

そういった言葉の意味やふるまいを学ぶのに、「順番とはね・・・」と言葉だけで伝えても簡単には理解できません。子どもたちの生活や遊び（具体的な経験）の中からそれらに沿いながらその意味や使い方を都度、具体的にわかるように伝えていくことにより、子どもたちも次第に言葉の意味がわかっていきます。

そういった意味ではトラブルが起きることがよくないのではなく、「トラブル」といううまくいかない具体的な経験の中から、そのようなことが起きたら次にどうすればよいか、また同じようなトラブルが起きないようにはどうすればいいかを理解していくわけです。

4歳くらいになると、物の取り合いは少なくなっていくます。具体的な経験を積み重ねていくことで、他の子が使っているときには、違うものを代わりに使って済ませたり、時間の見通しも広がって少し待てば自分が使えるようになることがわかったりするからです。遊ぶものを介在として次第に友達と繋がり、共通の遊びの中にいるという意識、つまり協調性が育っていきます。（ごっこ遊びやお家でのお手伝いなども、きまりを守る・役割を感じるといった協調を身につけるよい機会となります。）

わかっていくプロセスには常に「うまくいかない」の壁があり、子どもたちがそんなさまざまな壁を乗り越え、学び、成長していけるよう私たちはサポートしながら日々を送っています。簡単にうまくいかないこともたくさんありますが、頑張ろうとする姿勢を認め、支えてあげることが今の時期の子どもたちにとって大事なことだと考えています。

